

「循環型自然農法」へのこだわり

～ 作物も、自然環境も、地域の思いも、次の世代につなげていく。

ここ、北海道せたな町から。～（よしもりまきばHPより）

よしもりまきば(せたな町)



よしもりまきば 大口代表

◇【取組の経緯と概要】

- ◆ 1999年に親から経営継承し、親世代からの慣行農法を開始したが、2004年頃から自然環境に負荷をかけない環境型農業をやってみたいという思いを持つ
- ◆ 数々の失敗も経験。現在は、めん羊の排せつ物とミニトマトの規格外品、粃殻、ぬか等の自農場の残渣で作った完熟たい肥による土づくりを実施
- ◆ 2007年に「米」の有機農産物JAS認証を取得し、2009年に「大豆」、「ミニトマト」の有機農産物JAS認証を取得

【組織等の概要】

- ◆ 名 称: よしもりまきば
- ◆ 代 表: 大口 義盛
- ◆ 所在地: せたな町北檜山区愛知275
- ◆ 経営状況: 農地18.5ha(うち有機栽培6.5ha)
めん羊(サフォーク種中心)130頭
- ◆ 生産販売品目: ミニトマト、米、大豆(いずれも有機JAS認証取得)
- ◆ 主な販売先: デパート、青果店、米穀店、インターネット通販等

【今後の展望】

- ◆ 生産量を増やし、大豆、ミニトマトはもとより、有機栽培米を、将来を担う子供たちや多くの消費者に届けたい
- ◆ 新規就農を希望する実習生を積極的に受け入れ労働力を確保するとともに、「循環型自然農法」を伝えたい
- ◆ 各地の有機農業の仲間と連携し、取組の輪を広げたい



たわわに実った有機栽培米



真っ赤に熟したミニトマト

【取組の成果】

- ◆ ミニトマトは、甘みと香りが特徴の「まきばのトマト」として、全国のデパートへ出荷
- ◆ 道南の青果店においても、取引先数が年々増加



飼養中のめん羊(サフォーク種)